

「瀬戸内海の環境の保全に関する広島県計画」 骨子

1 国の動き

『豊かな瀬戸内海』

平成24年10月中央環境審議会 瀬戸内海における今後の目指すべき将来像と環境保全・再生の在り方について（答申）

◆ 内包するイメージ

- ① 美しい海
良好な水質の確保、自然景観・文化的景観の保全と利用
- ② 多様な生物が生息できる海
生物多様性の保全、高い生物生産性の維持
- ③ 賑わいのある海
地域資源の利用、海とのかかわりによる地域活性化

◆ 必要な視点

海域の状況や特性に応じた『豊かな海』

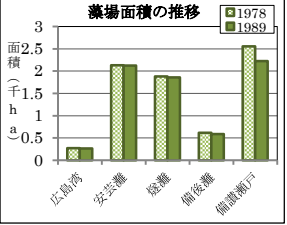
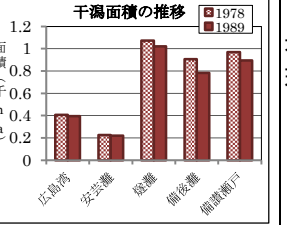
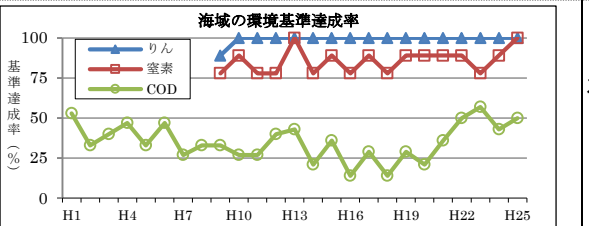
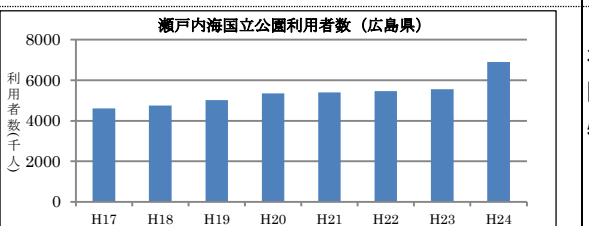
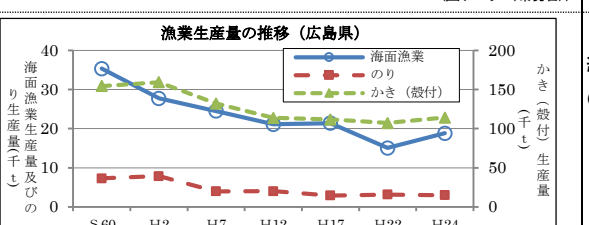
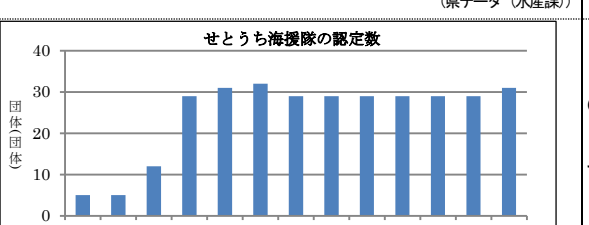
瀬戸内海の環境保全に関する国基本計画 (平成27年3月 変更)

- 『豊かな瀬戸内海』という考え方を踏まえ、
- ・ 「沿岸域環境の保全、再生及び創出」「水産資源の持続的な利用の確保」を新たに目標立て
 - ・ 水質の保全に「管理」の観点を追加
 - ・ 景観の保全に「文化的景観」を追加

今回変更

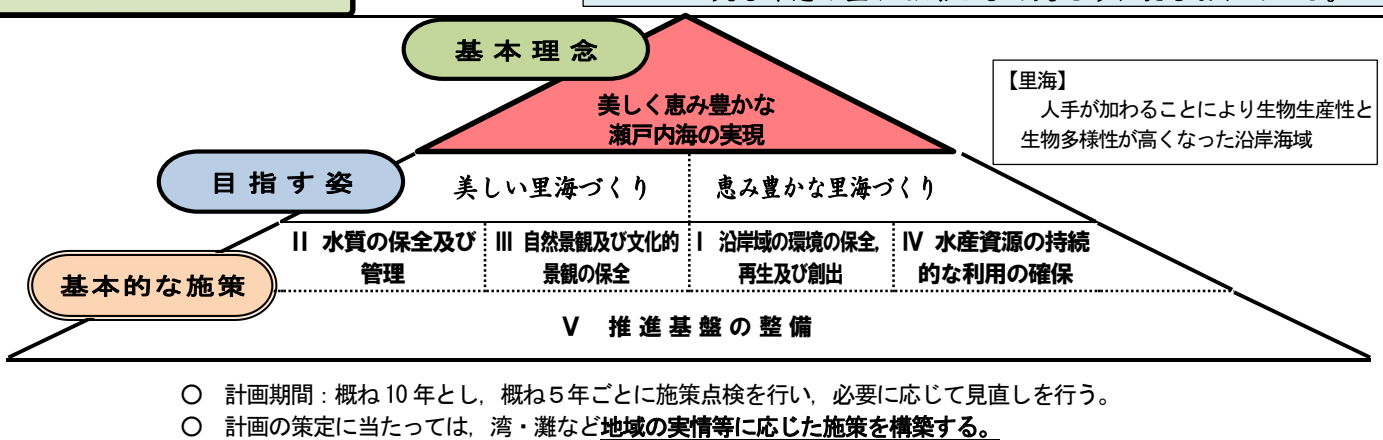
瀬戸内海の環境保全に関する府県計画

2 広島県の現状と課題

	現状	課題
【沿岸域環境】 沿岸域の開発等に伴い、生物の生息・生育場所であるアマモ場、干潟が減少 自然海岸が減少	  <p>(国データ (環境庁, 水産庁, 建設省))</p>	生物多様性、生物生産性を支える藻場・干潟の保全・再生を図るとともに、環境配慮型構造物の導入が必要
【水質】 リン、窒素は環境基準をほぼ達成 COD環境基準達成率は改善傾向 依然として赤潮や貧酸素水塊が発生	 <p>(広島県データ (環境保全課))</p>	引き続き環境基準の達成に努めるとともに、海域の特性に応じた適切な水質管理が必要
【景観】 「しまのわ」や「サイクリングしまなみ」など、瀬戸内海の特徴を生かした魅力ある観光地づくりを推進中 瀬戸内海国立公園の利用者数が増加 海ごみ問題が顕在化	 <p>(国データ (環境省))</p>	自然景観や文化的景観を保全し、特有の景観を活用して地域の活性化を図るとともに、漂着ごみ等への対応が必要
【水産資源】 本県の海面漁業生産量は減少傾向 ノリの色落ちの発生	 <p>(県データ (水産課))</p>	将来にわたって豊かな水産資源を維持できるよう、種苗放流や生息環境の改善、資源管理を行うことが必要
【推進基盤】 環境保全活動団体を「せとうち海援隊」として認定し、支援しているが、活動の広がりが限定的 生態系と水産資源との関わりに関する調査研究が不足しており、漁獲量減少の要因等が不明	 <p>(県データ (環境保全課))</p>	瀬戸内海における幅広い取り組みを進めるに当たり、さらなる住民活動の促進が必要 生態系と水産資源との関わりに関する調査研究の充実が必要

3 目指すべき将来像

～瀬戸内海が、様々な主体の取組により、美しく恵み豊かな海として支えられ親しまれている。～



4 施策体系

分野	項目
I 沿岸域の環境の保全、再生及び創出	<ol style="list-style-type: none"> 1 藻場・干潟・砂浜・塩性湿地等の保全等 2 自然海浜の保全等 3 底質改善対策・窪地対策の推進 4 埋立てに当たっての環境保全に対する配慮 5 環境配慮型構造物の採用
II 水質の保全及び管理	<ol style="list-style-type: none"> 1 水質総量削減制度等の実施 2 下水道等の整備の促進 3 水質及び底質環境の改善 4 有害化学物質等の低減のための対策 5 油等による汚染の防止 6 海水浴場の保全その他の措置 7 廃棄物の処理施設の整備及び処分地の確保 8 健全な水循環・物質循環機能の維持・回復
III 自然景観及び文化的景観の保全	<ol style="list-style-type: none"> 1 自然公園等の保全 2 緑地等の保全 3 史跡、名勝、天然記念物等の保全 4 漂流・漂着・海底ごみ対策の推進 5 エコツーリズム等の推進 6 島しょ部の環境の保全
IV 水産資源の持続的な利用の確保	<ol style="list-style-type: none"> 1 漁場環境の保全 2 水産動植物の増殖の推進 3 水産資源の適切な管理
V 推進基盤の整備	<ol style="list-style-type: none"> 1 水質等の監視測定 2 環境保全に関するモニタリング、調査研究及び技術の開発等 3 広域的な連携の強化等 4 情報提供、広報の充実 5 環境保全思想の普及及び住民参加の推進 6 環境教育・環境学習の推進